



No.139 2017. 9

発行 真言宗豊山派
北田山 寶泉寺
所沢市北岩岡 130
編集 色 摩 真 了
ホームページアドレス
takaranoizumi.com

エンディング産業展 に行ってきました

葬儀・埋葬・供養などを中心に、人生をどのように締めくくるかを考える、いわゆる「終活」に関する設備・機器・サービスの専門展示会「エンディング産業展」を体験しに東京ビッグサイトまで出かけてきました。

開催日は8月23日（水）～25日（金）の三日間。来場者は葬儀会社や石材店、仏具屋さんのスタッフが大半を占めていたようでしたが、お盆直後の、葬儀が行われることが少ない「友引」の平日が初日ということで、お坊さんも対象だったことが容易に想像できます。いずれにしても、興味深い展示や催しが沢山ありましたのでいくつかご紹介いたします。



なんとも可愛いくまモンご朱印帳

まずはセミナー・イベントの部。専門的な分野では、石屋さんに向けたものであることが一目瞭然、「お墓の価値を高めるために石材店ができること」、「まだまだできる石材店のネット活用術」。葬儀会社の方が対象なのでしょう、「葬儀の打ち合わせに活かすグリーフ（悲嘆）サポート」、「Google と探るエンディング産業の最新デジタルマーケティング」。そのまま直球、「仏壇店が売上を上げるための3つのこと」などなど。

一般の方対象としては「エンディングノート書き方講座」、「納棺士コンテスト」をはじめ、なんと、僧侶が正装で舞台に立ち、その出で立ちを評価される「美坊主コンテスト」なるものもありました(残念ながら未見)。

展示会部門では、様々なデザインの棺や花飾り、ご朱印帳をはじめ、遺骨でつくるダイヤモンドや、遺骨を空に散骨する「宇宙バルーン葬」(本当に宇宙まで届くのでしょうか…)。仏壇とお墓(納骨スペース)が一体となった「ハイブリッド仏壇」。お墓までの道案内をしてくれる、「墓地専用地図アプリ」。故人の写真がプリントできたり、好きな柄が入れられる「カスタマイズ骨壺」。職人さんによる石材加工実演など、興味深いものがあれこれ。



ペッパー導師

なかでも特に注目を集めていたのが、「ペッパー君」というロボットに読経や法話をさせる「ペッパー導師」でした(写真参照)。ロボットに導師を勤めさせるということには否定的な意見が多かったものの、なかには、「ろくでもない坊さんにやってもらうなら、ロボットの方が良い」なんていう声もあり、私たちもうかうかしていられないなと額の汗をぬぐったしだい。

今回、足を運んで改めて感じたのは、葬儀や供養の方法は、今現在大きな転換期にあり、また、これまでに類を見ないほどの選択肢にあふれているということ。そこで大切になってくるのは、一人一人が流行に踊らされることなく、自らの死生観をはっきりさせ、そして、その上で、きちんと自身の人生の締めくくりと向き合い、その中で生まれた考えを大切な家族と共有するという事なのではないでしょうか。

寶泉寺も、時代の流れに置いて行かれることのないよう(但し、それに流されることなく)、供養に関わる最も良い方法や心構えを追求していくつもりですので、皆様にはどうぞ安心していただきたいと思います。もし、なにか心配ごとがあれば遠慮無くいつでもご相談ください。

(真了)

➤ **本内容は宝泉寺の facebook ページでも取り上げています。興味のおありの方は facebook にアクセス後、「北田山宝泉寺」で検索してください。**

ほとけさまの本だな

その① 『ぼくを探しに』

偉そうなタイトルで恐縮ですが、今号から不定期で、絵本や児童書を中心に、私が面白いと感じた本を仏教的な視点もこめて紹介し参ります。

記念すべき第1回目は『ぼくを探しに』（シェル・シルヴァスタイン作、倉橋由美子訳、講談社1979）。パックマンのような姿形をした「ぼく」。「何か足りない それでぼくは楽しくない」ということで、自分にぴったりはまる「かけら」を探しに旅に出ます。紆余曲折ありながらもついにベストの「かけら」と出会うことができた「ぼく」ですが、果たしてそれは本当に幸せなことだったのでしょうか……。

私たちは、常に変わり続けていて固定された「私」というものがない。これが仏教の考え方です。そのような観点からこの本を読むと、また面白い見方ができると思います。自分探しに悩む中学生以降の若い世代にお薦め。



るりの会2017

寶泉寺と同地区の小学生を対象に毎年行われている、お寺一泊体験「るりの会」が今年も無事終わりました。今回はお母さん方にも一緒におつとめをしていただきました。



老僧のつぶやき ⑤

8月はじめ、お盆に向けて一番忙しい時に溶連菌(ようれんきん)に感染、高い熱で寝込んでしまいました。一般的に子どもに多い感染症ではあるが、我が家では大人3人が連続して罹ってしまいました。抗生剤10日分が処方されましたが、それでも治りきらずもう一度お薬をいただきました。いまだにジョギングやウォーキングも出かける気力がわきません。

この数年治りの悪いこと、以前、処方された薬は余るのが当たり前、それは以後の何かのときに取っておいたものだったのにと、つい愚痴もできます。同じようにお思いの方も多いのではと思います。老境に到る道すじかなとも・・・

本堂の再塗装

設計事務所を通じて、再塗装、補修、若干の改修について施工業者選定のため見積り依頼中。提出され次第検討を加えて業者の選定、契約、施工となります。詳細は今回のるり光でお知らせすることが出来ないのですが、決定事項については大師堂の掲示板でお知らせ致します。

世話人の任期について

寶泉寺は住職を中心に、概ね8名の総代と12名の世話人で運営されています。元々の寶泉寺の檀家区域を12に分けて世話人様には「るり光」・「光明」の配布、護持費の徴収などをお願いしています。

春の世話人会においてその任期のことが話し合われました。各班の事情によって1年、2年とばらつきがあるので、今年度から1年に統一することとなりました。特に北田地区の皆様にはご了解の程をお願い致します。

編集後記

- ちょっとした病気も治りが悪くなったが疲れも取れにくくなった。しかし家庭でも学校でも見せてはいないだろう子どもたちの姿を観ると元気が出てくる。
- ヒガンバナがもう咲き出している。どんな気象条件でも必ずお彼岸に咲くと言われる花だが今年のようなイレギュラーな天候には対応ができなかったのかもしれない。春の新芽には花を待たず夏の休眠後、秋に花を咲かせるという、1

年に2つの姿を見せる。そのことから此岸(しがん)＝現実のこの世と、彼岸(ひがん)＝仏の世界を表すので「ヒガンバナ」という説がある。葉を見て花を思い、花を見て葉を思う。この世にいてあの世、彼岸をを思うことに通じるそうだ。
• 陸上100メートルがついに9秒台に突入。100メートルといえば思い起こすのは「暁の超特急、吉岡隆徳」だ。長く輝いた大記録、小僧も人間が古くなった証拠かな・・・

Sep.15.2017(琴)